



## 時間に流されない主人公

「主人公とは、時間に流されるのではなく、自分で時間を管理することができる人」という話を子どもたちにしています。運営協議会でも「時間のけじめ」について意見が出されました。そこで、この時間管理の力を伸ばすためにも、当面の間すべての区切り時刻にチャイムを鳴らすことにしました。（近隣の皆様には、頻繁にチャイムの音が聞こえるかと思いますが、ご理解の程お願いします。）休み時間と授業時間の区別がはっきりしたことで、子どもたちにどのような変化が見られるか、検証していきたいと思います。

また、学期末特別日課の下校予定時刻は1時35分となっています。初日は集合が遅れ、10分遅く帰すことになってしまいました。予定時刻にお迎えに来られた保護者の皆様には、暑期中お待たせすることになり、大変申し訳なく思いました。このようなことがないように子どもたちにも指導した結果、3日目にはきちんと予定時刻前に集合完了し、時間通り下校させることができるようになりました。4日目は「先生たちは『急ぎなさい』という言葉は言ってはいけない」とさらに条件をレベルアップして、自分たちで考えさせるようにしました。このような指導を繰り返すことで、子どもたち自身で声を掛け合い、時間を管理できる主人公が増えてほしいと願っています。

## 自分の目と耳と体で聞き、話すことができる主人公

「よりよい大草小にするために、できることは」というテーマで話し合った子ども会議。その結果を受けて、「人の話をしっかり聞く、返事や反応をする」と自分たちで目標を立てました。1年生の教室からも、国語や算数の時間に「いいです。」「同じです。」などの返事が聞こえてくるようになっていきます。

また、2年生は国語の時間に5人で討論する場面がありました。『きつねのおきゃくさま』の「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」というセリフは、きつねが言ったのか、それともおかみが言ったのか、という論点です。（周りのひよこたちというつぶやきも聞こえていました）自分の意見を相手に納得してもらうために、「例えば…」と別の例を示して説明する子もいました。身振り手振りを使って登場人物になりきって、音読を交えながら説明する子もいました。教科書を指し示したり、机から離れて演じたり、自由に討論する姿はまさに、「自分の目と耳と体で聞き、話すことができる主人公」でした。

主人公が確実に育ちつつある1学期も、終わろうとしています。夏休みは、「自分で時間を管理する力」を伸ばす絶好の機会です。ご家庭での声掛けと励ましをお願いします。